

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653052

研究課題名（和文）「競争的配分」の観点に依拠した情報提供機能と利害調整機能の同時的分析

研究課題名（英文）A Simultaneous Analysis of a Valuation objective and an efficient Contracting objective in terms of Competitive Equilibrium

研究代表者

高尾 裕二 (TAKAO HIROJI)

大阪大学・経済学研究科・教授

研究者番号：60121886

研究成果の概要（和文）：財務報告の目的については、「情報提供機能」と「利害調整機能」の二つが対立的に捉えられるのが一般的である。本研究は、ミクロ経済学における競争的均衡に係る「ワルラス的見方」と「エッジワース的見方」という2つの見方を、財務報告の2つの機能と対応・対比させることにより、これら2つの機能を統合ないし融合すると考えられる機能を新たに見出そうとするものであり、企業の最適な投資行動を導く財務報告という目的（「資源配分機能」）に、その可能性があるのではないかとの一つの結論を得た。

研究成果の概要（英文）：The objective of financial reporting generally presupposes a valuation objective and an efficient contracting objective in the accounting literature. Our research tentatively conducts to find out a new objective of financial reporting that combines with a valuation objective and an efficient contracting objective, by referring two different types of competitive equilibrium framework (“Walras” and “Edgeworth”). Our examination suggests that we are able to indicate a “Resource Allocation objective”, which means to lead to an optimal investment for plant, equipment and R&D in the firm.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	510,000	2,710,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：会計の基本機能、競争的均衡、財務報告の資源配分機能

1. 研究開始当初の背景

一般に、財務報告の目的には、(a)資本市場における投資者の証券投資意思決定に役立つ情報を提供するものであるとする情報提供機能（評価目的）と(b)企業を巡るステーク

ホルダー間での利害の調整に役立つものであるとする利害調整機能（効率の契約目的）の二つがあるとされ、両者は対立的に捉えられてきた。しかし、最近における文献研究・実証研究の成果等を踏まえると、対立的に捉

えられてきた両者の機能は、現実社会においてはかなり重複し重なり合ったものではないのか、さらにはこれら二つの機能の背後にはある種のより根源的な会計情報の働きがあるのではないかと、といった斬新な見方が示唆されるようになってきていることがわかる。

このような最近の財務会計における新たな潮流に触発され、本研究は、(a)情報提供機能（評価目的）と(b)利害調整機能（効率的契約目的）を統合ないし融合した会計のより根源的な基本機能を見出そう、少なくともそのような基本機能についての示唆を得ようとするものであった。

2. 研究の目的

会計の二つの基本機能とされる情報提供機能（評価目的）と利害調整機能（効率的契約目的）を、市場の特徴や価格の性格といった観点からみると、おおよそ、次のことが指摘できるように思われる。

前者の情報提供機能（評価目的）は、資本市場といったよく組織された市場とそこで形成される効率的な価格形成を前提とするものであるのに対して、後者の利害調整機能（効率的契約目的）は、市場が存在しないかまたは不完全な市場しか存在せず、よって取引のシグナルとなる観察可能な価格が存在しないか、存在しても情報に対して非効率的な価格しか存在しない市場環境を前提とするものである、ということである。

翻って、ミクロ経済学における競争的均衡のあり方についての議論を参照してみると、周知のように、効率的な価格の存在を前提として効率的な資源配分が導かれるとする「ワルラスの見方」と市場および価格の存在をそ

もそも存在とせず取引当事者間での相対的な財の交換取引・契約の集積した結果として効率的な資源配分が導かれるとする「エッジワース的見方」の二つがある。

本研究では、「ワルラスの見方」を会計の基本機能における(a)情報提供機能（評価目的）に、「エッジワース的見方」を会計の基本機能における(b)利害調整機能（効率的契約目的）に対置させ、「ワルラス的見方」と「エッジワース的見方」が、入口の前提は異なるものの、出口の結果ではともに同一の効率的資源配分をもたらす競争的均衡が存在するとされる。本研究の目的は、競争的均衡の基礎的な分析枠組みを理解し、応用することによって、情報提供機能と利害調整機能の統合ないし融合した新たな会計の機能を探ろうとするものである。

3. 研究の方法

まずに、会計研究者にとって理解可能な範囲で、「ワルラス的見方」と「エッジワース的見方」の基礎、加えて初歩的な一般均衡分析の議論を、会計の基本機能への対応および応用という観点から理解するため、関連するミクロ経済学分野の基礎的文献を渉猟した。ついで、会計学分野における情報提供機能（評価目的）と利害調整機能（効率的契約目的）とミクロ経済学におけるこのような議論が、どのように関連しているのかを理解するために役立つ分析枠組みを構築し、この分析枠組みに基づいて、より根源的な会計の機能を見出すべく、これら二つの機能の統合・融合の可能性を検討するという方法をとった。また、構築された分析枠組みの妥当性を検証するため、準備的・予備的な実験も一部試行した。

4. 研究成果

研究の過程で、「ワルラスの見方」と「エッジワースの見方」がともに同一の競争的資源配分をもたらすとする競争的均衡の存在に関する議論は、主に純粋交換経済を前提としたものであり、生産を伴う経済を前提とした場合の競争的均衡の結果については、ミクロ経済学において、現在においても、さほど明確な結論が得られていないことが次第に明らかになった。

会計情報の対象は、企業の(生産・)投資活動である。そこで、当初の研究方法を少し修正し、もう少し一般的な形で、基礎的な一般均衡論的分析枠組みに軸足を移し、改めて検討することが必要であると考えに至った。この段階で、Kanodia(2007)などの議論からも示唆を得て、一方での設備・研究開発等の企業の投資意思決定と他方での資本市場における企業の価格づけの双方を同時に考慮するという一つの一般均衡論的分析枠組みが有効ではないかと思いつき、情報提供機能と利害調整機能を統合・融合する一つの方向性を示す分析枠組みとして利用しようと考えた。

上記のような分析枠組みを参照・利用することにより、企業の過大投資・過小投資を回避し、企業の最適な設備・研究開発投資に導く会計の新たな基本機能(われわれは、この機能を会計の「資源配分機能」とよぶ)がありうること、また今後、財務報告の目的としての資源配分機能に着目した研究が、財務会計理論の新たな地平を切り拓く可能性が大いにありうること、この二つのアイデアを、結果として得ることができた。

う

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① 高尾裕二、会計の基本機能の分析と会計研究の今後、会計、査読無、182巻、(2012)、1-16

② 上枝正幸、IR(インベスター・リレーションズ、投資家向け広報)-経営環境とわが国における扱いの変遷について-、青山経営論集、査読無、47巻3号、(2012)、65-84

③ 高尾裕二、企業の意思決定と資本市場における価格づけの同時決定的枠組みと会計情報、会計、査読無、179巻、(2011)、57-69

④ 高尾裕二、第三の「会計の基本機能」に向けて-財務報告の目的としての企業投資を考える-、企業会計、査読無、63巻、(2011)、4-10

⑤ 上枝正幸、実験経済学の手法を用いた会計・監査教育、追手門経営論集、査読無、16巻、(2010)、19-78

[学会発表] (計2件)

① 上枝正幸・上条良夫、経営者の情報開示・開示規制と投融資決定-コーディネーション・ゲームを用いた分析-日本会計研究学会全国大会、2012. 9. 10、一橋大学

② 高尾裕二、企業の意思決定と資本市場における価格づけの同時決定的枠組みと会計情報、日本会計研究学会関西西部会、2010. 12. 18、大阪市立大学

〔図書〕（計2件）

①田口聡志監訳、上枝正幸・水谷覚・三輪一統・嶋津邦洋訳、中央経済社、心理会計学-会計における判断と意思決定、(2012)、36-75、199-205、246-305、308-328

②椎葉淳・高尾裕二・上枝正幸、同文館出版、会計ディスクロージャーの経済分析、(2010)、3-14、70-80、136-142、174-181、183-192

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高尾 裕二 (TAKAO HIROJI)
大阪大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：60121886

(2) 研究分担者

上枝 正幸 (UEEDA MASUKI)
青山学院大学・経営学部・准教授
研究者番号：20367684